

一般社団法人OCF

BIM/CIM成果品作成時の留意点

令和7年度版

Open CIM Forum (OCF)



2021年11月作成
2022年1月更新
2024年9月更新
2026年2月更新

はじめに

- 本資料は、受注者がOCF参加ベンダーのBIM/CIM対応ソフトウェアを用いて国土交通省の「土木設計業務等の電子納品要領」、「工事完成図書の電子納品等要領」等に基づいてBIM/CIM成果品を作成・納品することを前提に、その際の留意点をまとめたものである。
- これらの留意点に対応することで、BIM/CIM設計業務における成果品を比較的容易に施工段階で有効活用することができるようになる。
- 本資料でのBIM/CIM成果品とはJ-LandXMLおよびIFCファイルを指す。なお、これらとは別に、各ソフトで作成したオリジナルデータ（各ソフト固有のデータ形式）も納品が必要だが、その納品方法等については各ソフト提供会社へ確認願いたい。
- 本資料で示す留意点は以下の4点である。

留意点①：線形 + 横断形状 + サーフェス形状をJ-LandXMLで出力すること

留意点②：データ形式はJ-LandXML形式で出力すること

留意点③：IFCファイルは原寸で出力すること（フィート等にならないようにする）

留意点④：IFCファイルは外部参照へのリンク切れが起こらないように出力すること

これらの留意点は国土交通省が公開しているBIM/CIMポータルサイトに掲載している各種基準、ガイドライン等にも記載があるので参考にされたい。

<https://www.nilim.go.jp/lab/qbg/bimcim/standard.html>

留意点①：線形 + 横断形状 + サーフェスモデルをJ-LandXMLで出力すること

BIM/CIM適用業務実施要領（別紙2 P6等）
[001872849.pdf](#)

留意点②：データ形式はJ-LandXMLで出力する事

BIM/CIM適用業務実施要領（別紙2 P6等）
[001872849.pdf](#)

留意点④：IFCファイルは外部参照へのリンク切れが起こらないように出力すること

3次元モデル照査時チェックシート等
[001872845.docx](#)

目次

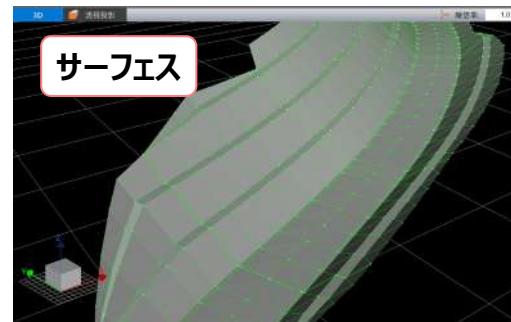
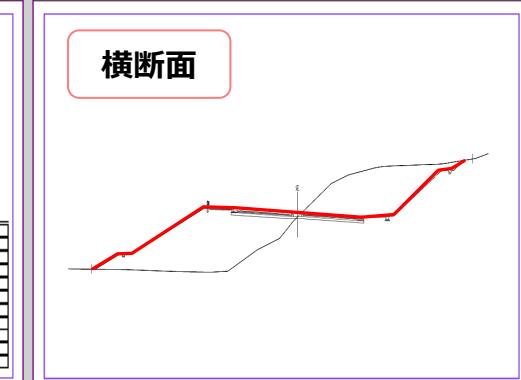
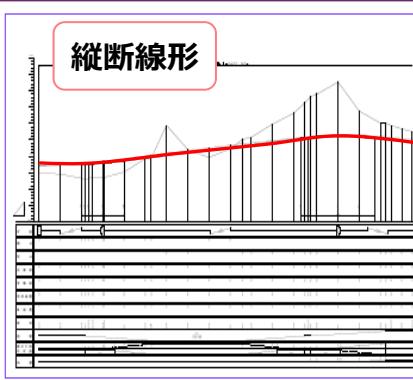
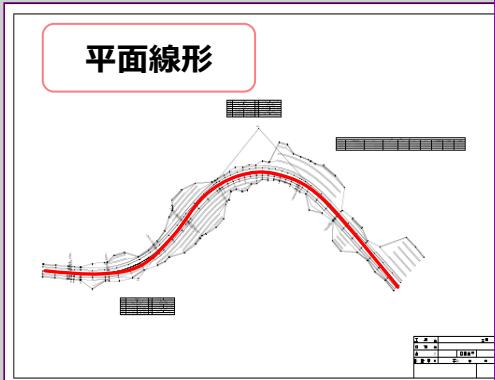
- 留意点①：線形 + 横断形状 + サーフェスマodelでの出力 ……p5
- 留意点②：J-LandXMLとして出力 ……p9
- 留意点③：原寸で出力すること（フィート等にならない） ……p16
- 留意点④：外部参照へのリンク切れが起こらないように出力 ……p19

留意点①：線形 + 横断形状 + サーフェスモデルでの出力

1.1 線形 + 横断形状モデルとは？

道路や堤防などの線形を有するモデルのJ-LandXMLデータは概ね以下の要素で構成されます。

- ・平面線形
- ・縦断線形
- ・横断面
- ・サーフェス

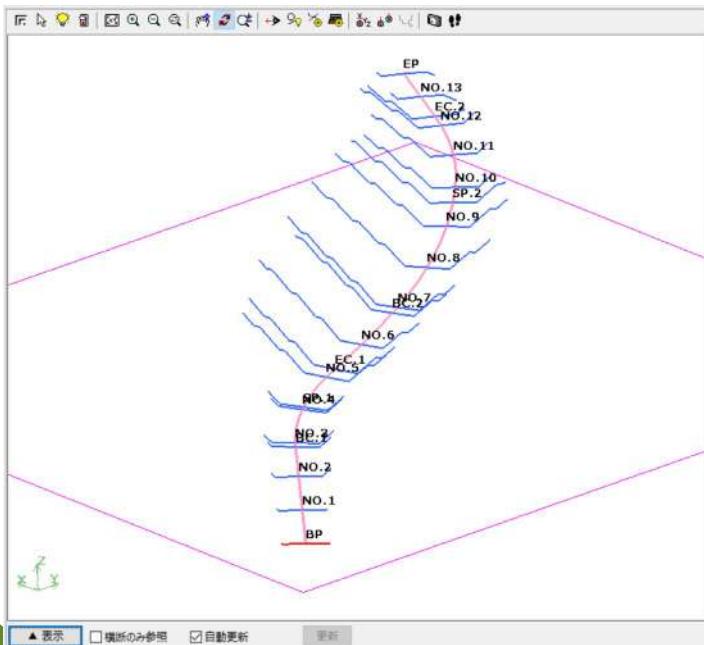


留意点①：線形 + 横断形状モデルでの出力

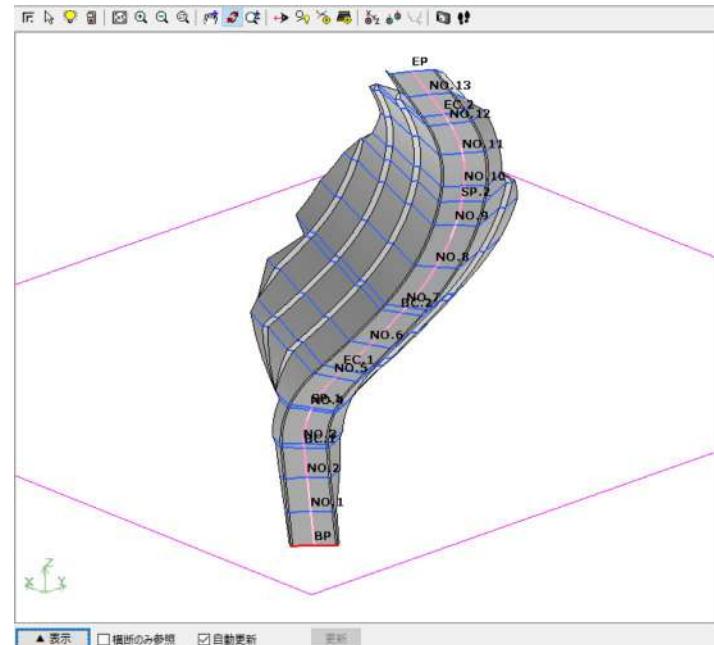
1.1 線形 + 横断形状モデルとは？

線形 + 横断形状モデルは平面線形、縦断線形および横断面で構成されるモデルです。

施工段階で有効活用するためには、線形 + 横断形状モデルとサーフェスデータの両方が必要になります。サーフェスモデルのみの場合には、施工段階での活用は限界があります。
サーフェスは、線形 + 横断形状モデルでは表現できない造成面などを補足します。



線形 + 横断形状モデル



線形 + 横断形状モデル + サーフェス

留意点①：線形 + 横断形状 + サーフェスモデルでの出力

1.2 線形 + 横断形状モデルが必要な理由

サーフェスデータのみを施工に受け渡した場合、施工段階で2D図面から3次元設計データとして、改めて線形 + 横断形状モデルを作成し直す必要があります。

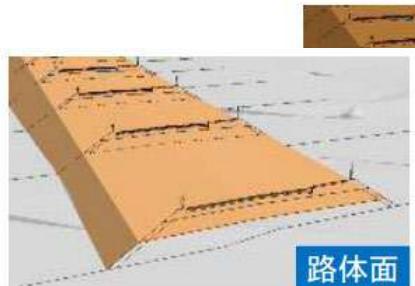
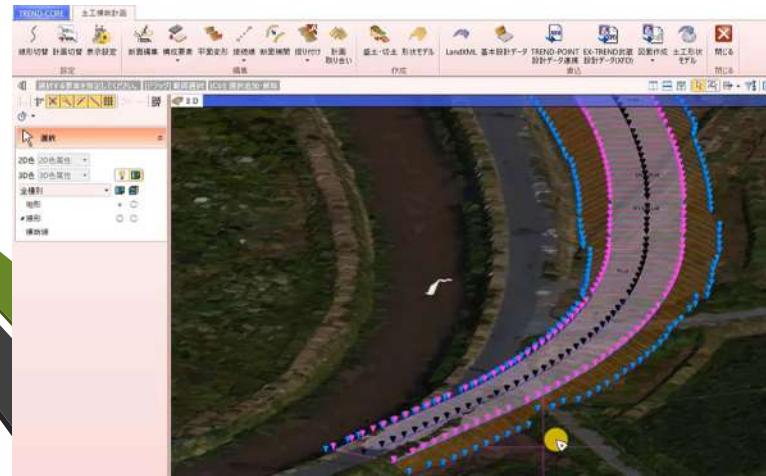
線形 + 横断形状モデルの施工段階での活用場面（サーフェスのみでは実施できない作業）

例 1：設計変更による線形や横断形状の変更作業

例 2：起工測量への擦り付け（重畠）、ICT施工のための法面の延長

例 3：巻き出し層ごと、あるいは路体、路床、表層ごとのICT施工データ作成

例 4：TS出来形管理

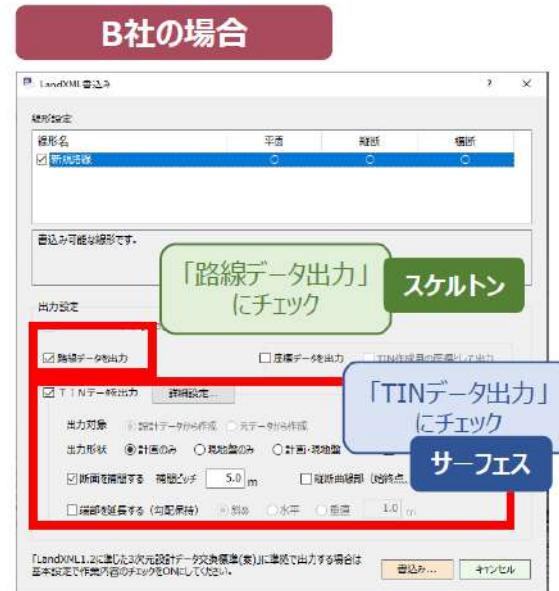
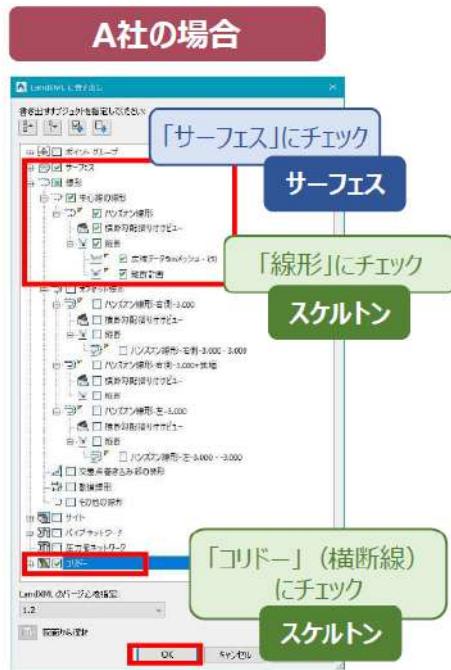


留意点①：線形 + 横断形状 + サーフェスモデルでの出力

1.3 線形 + 横断形状 + サーフェスモデルの出力方法

線形 + 横断形状 + サーフェスモデルの出力方法は各ソフトウェアによりますので、別紙（<https://ocf.or.jp/cim/bim-cim/>）を参照ください。

出力設定の例（使用するソフトウェアにより異なります）



留意点②：J-LandXMLとして出力

2.1 J-LandXMLとは？

世界的なデータ交換フォーマットであるLandXML 1.2を利用し、日本国内の道路事業・河川事業等へ適用するために、一定のデータ表現方法を規定したものです。

一般社団法人OCFが発行、国土技術政策総合研究所が監修している「LandXML1.2に準じた3次元設計データ交換標準（案）」のことを略してJ-LandXMLと呼んでいます。

オリジナルのLandXML 1.2

No.	要素名	内容
1	Units	単位（長さ、面積、体積など）
2	Coordinatesystem	座標系
3	Project	プロジェクト名と説明
4	Application	アプリケーション名
5	CgPoints	座標点
6	Alignments	中心線形および横断形状
7	GradeModel	勾配モデル
8	Roadways	道路構成要素の集合
9	Surfaces	地形モデルのサーフェス
:	:	:

国内の道路・河川
事業に適用するた
めに必要な項目

LandXML 1.2に準じた
3次元設計データ交換標準(案)
(= J-LandXML)

留意点②：J-LandXMLとして出力

2.2 J-LandXMLが必要な理由

LandXML1.2は世界的な基準であり、日本で有効に活用するためには以下の問題点がある。これらの問題点を解決するのがJ-LandXMLです。

問題点 1：表現方法が明示されていない

土木に用いるデータ構造は定義されているが、データの表現方法が定義されておらず、異なるベンダのソフトウェア同士では正しく属性を交換できない。

問題点 2：属性が足りない

米国で開発された仕様であるため、日本で用いられる属性で表現できないものがある。

【具体例】

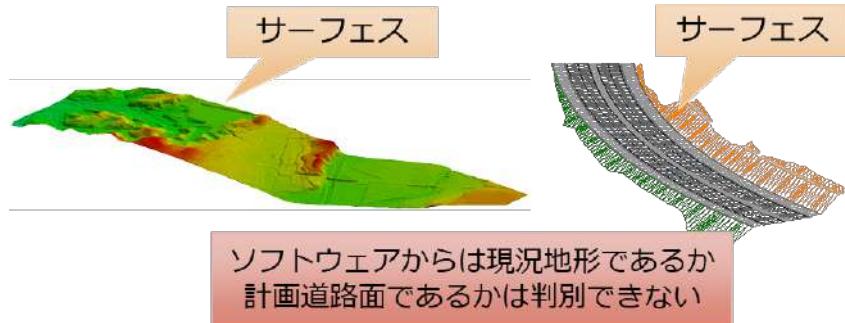
サーフェス要素を用いて、現況地形と計画道路面を表現した場合、LandXMLではどちらも単なる「サーフェス要素」であり、現況地形であるか、計画道路面であるかは、判定できない。

そこで、J-LandXMLでは、

現況地形 = Existing Grade

計画道路面 = Finished Grade

という記載ルールを追加しています。



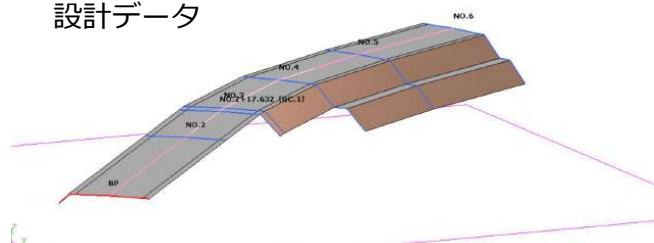
留意点②：J-LandXMLとして出力

2.2 J-LandXMLが必要な理由

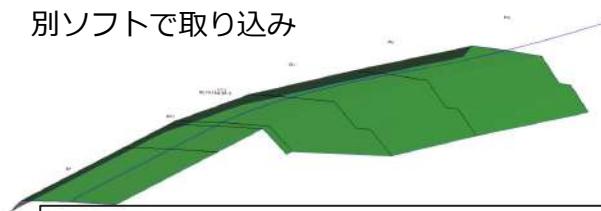
J-LandXMLデータの交換によるメリットの例①

LandXML 道路モデルを出力

設計データ



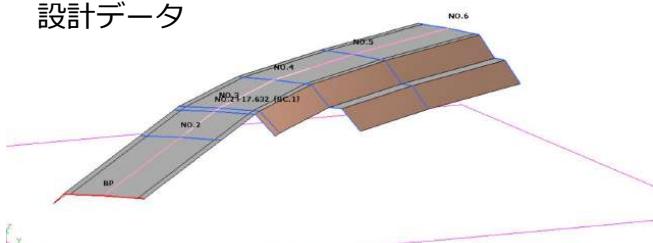
別ソフトで取り込み



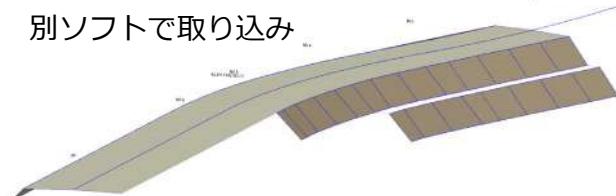
現況地形であるか、
設計面（計画面）であるかは判定できない。

J-LandXML 道路モデルを出力

設計データ



別ソフトで取り込み



設計面（計画面）と判別して取り込まれる

留意点②：J-LandXMLとして出力

2.2 J-LandXMLが必要な理由

J-LandXMLデータの交換によるメリットの例②

LandXML

道路規格、設計交通量等の情報を付与

設計情報	路線名 国道●●	座標参照系 座標系名称 CRS-1
道路規格 第2種第1級	測地原点 日本測地系2000	基準面名 T.P
設計速度 80km/h	始直原点 TPとの標高差 0.0000 m	選択...
設計交通量 500 (台/日)	水平座標系 平面直角座標系第Ⅲ区	
車線数 ○一車線 ●多車線	始直座標系 ● 銛直原点となる平均海面からの高さ	
工事名 ●●工事	○ 横円体高	
施工業者名 ●●建設		
データ作成日 2021年 4月 1日	座標系注意点	
事業段階 施工		

別ソフトで取り込み

LandXMLデータ交換標準出力設定	×	
設計情報	工事名 ●●工事	座標参照系 座標系名称 CRS-1
路線名 国道●●号	測地原点 日本測地系2000	基準面 東京湾中等潮位(T.P)
道路規格 第2種第1級	始直原点 TPとの標高差 0.0000m	水平座標系 8系
設計速度 80km/h		
設計交通量 500		
事業段階 施工		

※青文字は入力必須項目です。

いくつかの情報が欠落する

J-LandXML

道路規格、設計交通量等の情報を付与

設計情報	路線名 国道●●	座標参照系 座標系名称 CRS-1
道路規格 第2種第1級	測地原点 日本測地系2000	基準面名 T.P
設計速度 80km/h	始直原点 TPとの標高差 0.0000 m	選択...
設計交通量 500 (台/日)	水平座標系 平面直角座標系第Ⅲ区	
車線数 ○一車線 ●多車線	始直座標系 ● 銛直原点となる平均海面からの高さ	
工事名 ●●工事	○ 横円体高	
施工業者名 ●●建設		
データ作成日 2021年 4月 1日	座標系注意点	
事業段階 施工		

別ソフトで取り込み

LandXMLデータ交換標準出力設定	×	
設計情報	工事名 ●●工事	座標参照系 座標系名称 CRS-1
路線名 国道●●号	測地原点 日本測地系2000	基準面 東京湾中等潮位(T.P)
道路規格 第2種第1級	始直原点 TPとの標高差 0.0000m	水平座標系 8系
設計速度 80km/h		
設計交通量 500		
事業段階 施工		

※青文字は入力必須項目です。

情報が欠落しない（ソフトによっては取り込めない場合もあります）

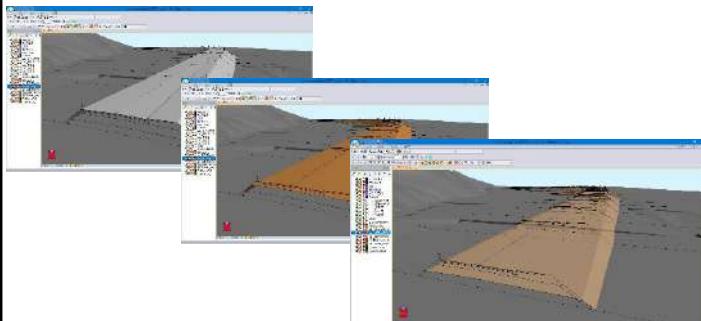
留意点②：J-LandXMLとして出力

2.2 J-LandXMLが必要な理由

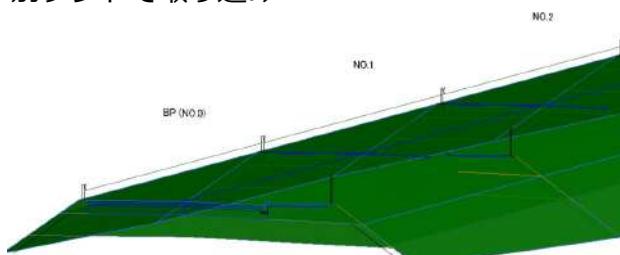
J-LandXMLデータの交換によるメリットの例③

道路モデルをLandXMLで出力した場合

設計ソフトで道路面、路床面、路体面を作成



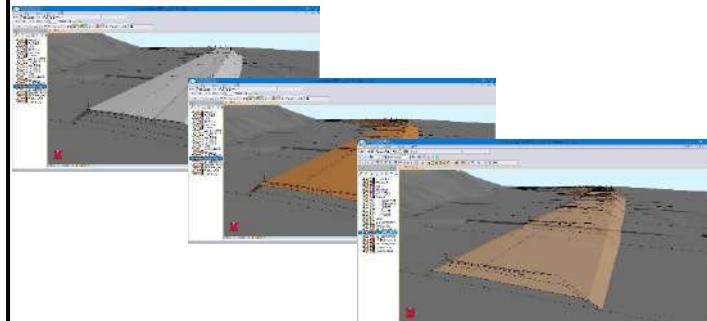
別ソフトで取り込み



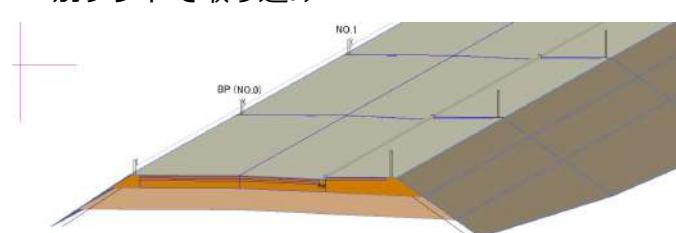
どの計画層か判定できない。

道路モデルをJ-LandXMLで出力した場合

設計ソフトで道路面、路床面、路体面を作成



別ソフトで取り込み



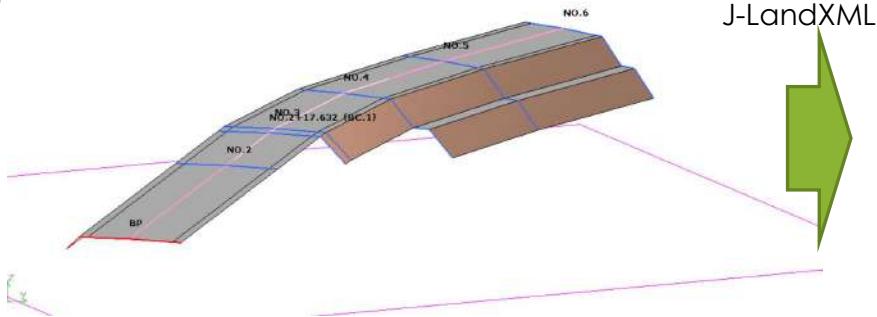
道路面、路床面、路体面として取り込まれる。

留意点②：J-LandXMLとして出力

2.3 J-LandXMLとLandXMLの互換性について

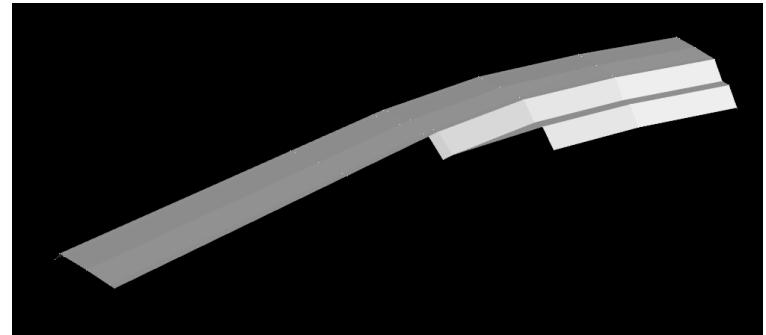
J-LandXMLデータを「J-LandXMLに未対応のソフトウェア」で読み込む場合、形状については正確に受け渡すことはできますが、情報の一部が欠落します。欠落する情報の内容は、「**LandXML1.2に準じた3次元設計データ交換標準（案）Ver1.7**」をご参照ください。

設計ソフト（J-LandXML対応）



J-LandXML
→

J-LandXML未対応ソフト



形状は取り込めますが、情報の一部が欠落します。

欠落する情報の例：

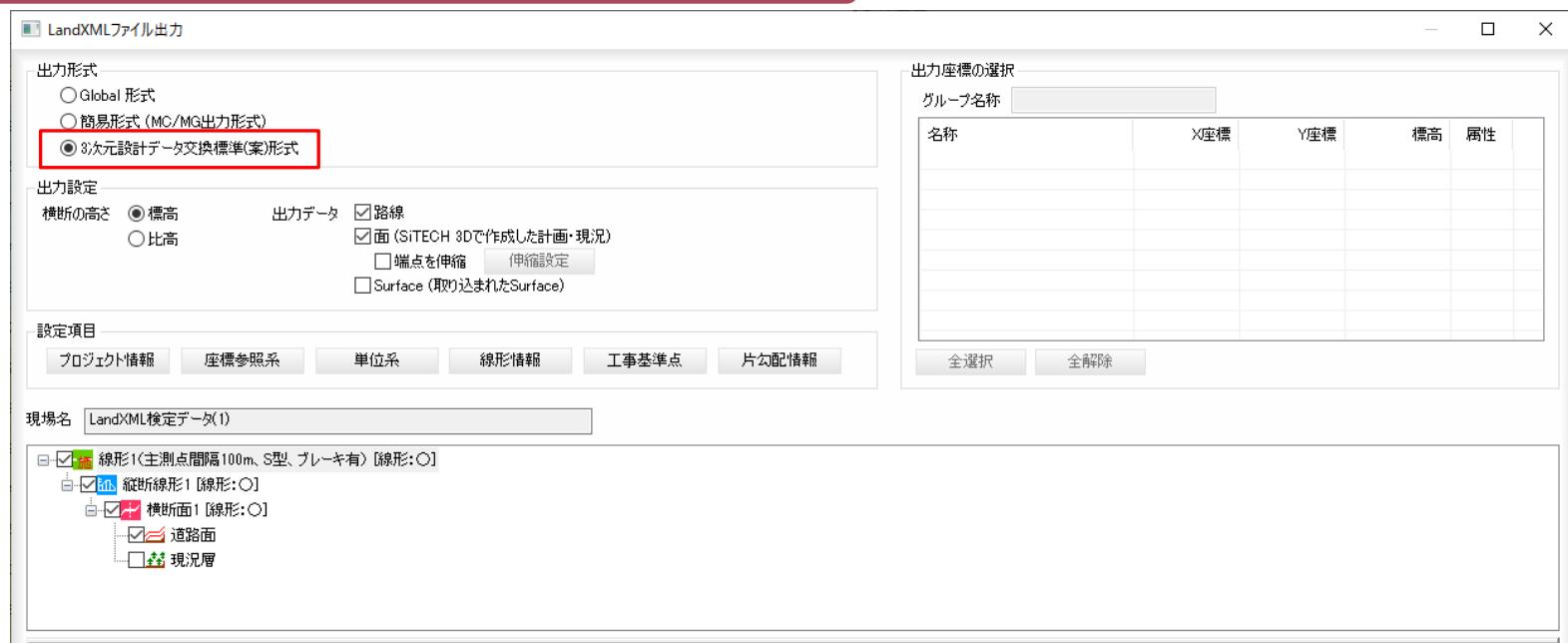
- ・適用基準
- ・T.P（東京湾中等潮位）との標高差
- ・道路の規格・等級
- ・設計交通量
- ・設計計算手法名
- ・計画高との高低差 等

留意点②：J-LandXMLとして出力

2.4 J-LandXML出力方法

各ソフトウェアでのJ-LandXMLの出力方法は、別紙（<https://ocf.or.jp/cim/bim-cim/>）を参照ください。

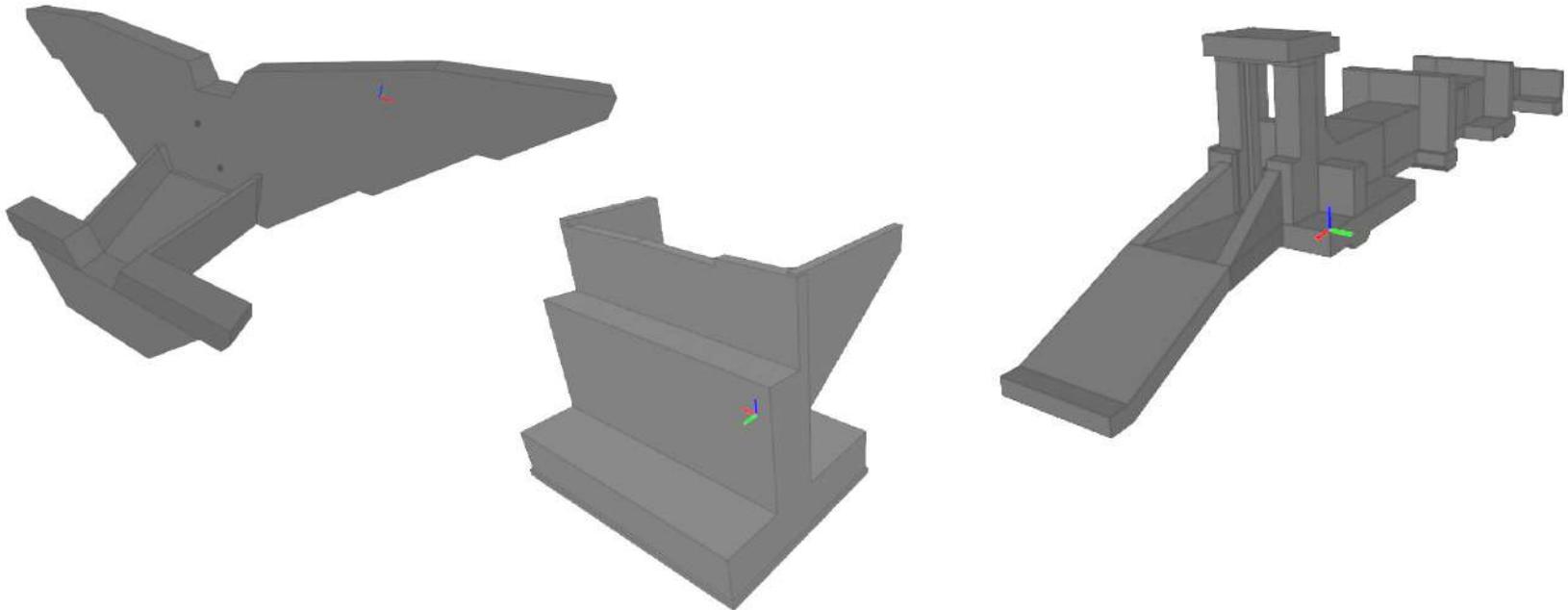
出力設定の例（使用するソフトウェアにより異なります）



留意点③：IFCファイルは原寸で出力すること（フィート等にならぬようにする）

3.1 IFCとは？

IFC (Industry Foundation Classes) は、主に構造物モデルを交換するための標準的なデータフォーマットです。



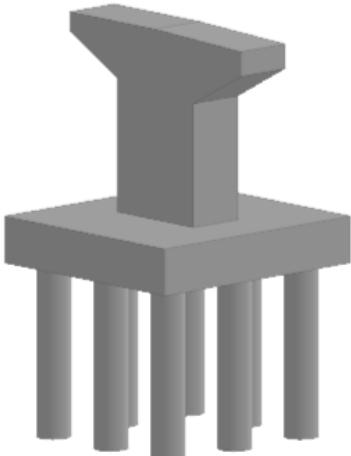
IFCで交換する構造物モデルの例

留意点③：IFCファイルは原寸で出力すること（フィート等にならぬようにする）

3.2 原寸での出力が必要な理由

原寸でモデルを出力しない場合、施工ソフトで取り込んだ際に地形データや点群データ等とサイズがあわず、施工計画などに活用することができません。

設計ソフト



設計意図と異なる
寸法で出力



施工ソフトで点群などと重ね合わせ



施工計画などに活用できない

設計意図通りの
寸法で出力



施工ソフトで点群などと重ね合わせ



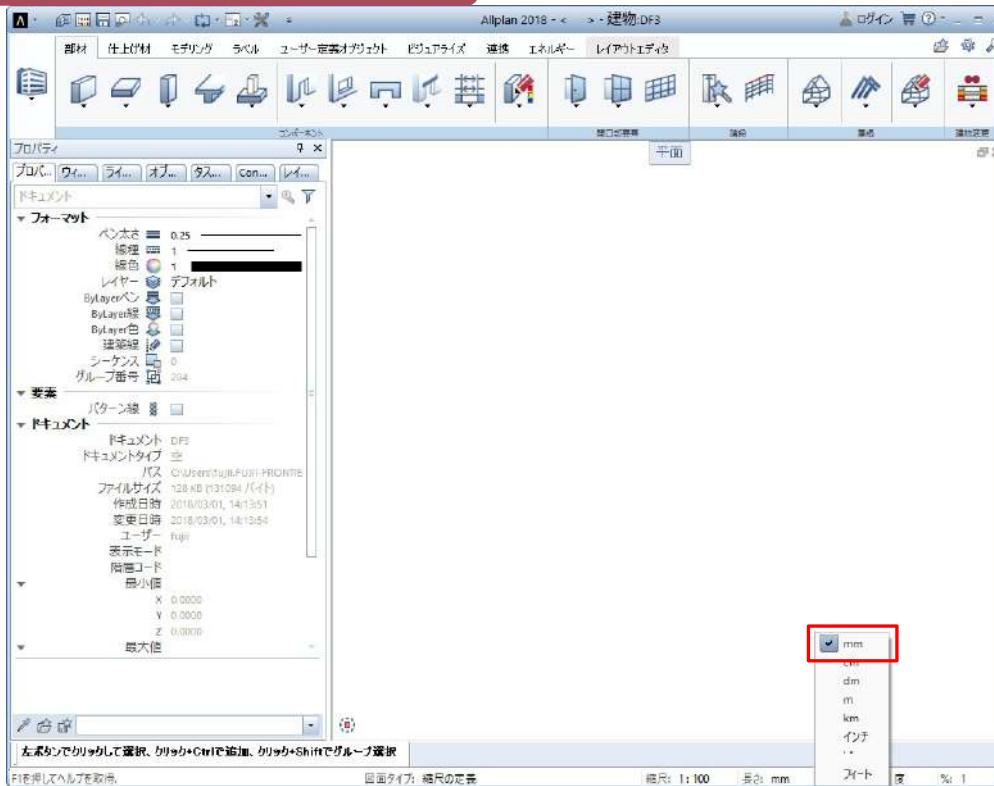
施工計画などに活用できる

留意点③：IFCファイルは原寸で出力すること（フィート等にならぬようにする）

3.3 原寸での出力方法

各ソフトウェアでのIFCの原寸での出力方法は、別紙（<https://ocf.or.jp/cim/bim-cim/>）を参照ください。

出力設定の例（使用するソフトウェアにより異なります）



留意点④：IFCファイルは外部参照へのリンク切れが起こらないように出力すること

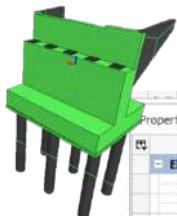
4.1 リンク切れが起こらない出力が必要な理由

属性情報は、「直接付与」もしくは「外部参照」で設定します。

「外部参照」とは3Dモデルに関連する情報、資料（図面PDFや数量EXCELファイル等）のリンク先を設定する方法を指します。

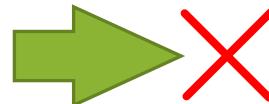
よって、オリジナルファイルからIFC出力した際に、このリンクが切れてしまうと、施工段階で図面や数量等の情報を参照できなくなります。

設計段階で属性情報を
外部参照としてリンク設定



	Properties	Location	Classification	Relations
-	Name	Value		
- Element Specific:	Guid	2YIF5QAH55ufPeWbUq\$Yv		
	IfcEntity	IfcBuildingElementProxy		
	Name	名称未設定		
	Tag	a248f15a-2911-45e2-9668-8257b4fc2b79		
- URL				
	配合試験報告書.pdf	.リンクファイル\配合試験報告書.pdf		
	配筋図.pdf	.リンクファイル\配筋図.pdf		
	施工計画書.pdf	.リンクファイル\施工計画書.pdf		
	ミルシート.pdf	.リンクファイル\ミルシート.pdf		
- 品質管理基準情報				
	圧縮強度	40N/mm ²		
	水セメント比	50%		
	打設時気温	20°C		
	単位水量	180kg/m ³		
	空気量	4%		
	コンクリート温度	30°C		
	スランプ	15cm		

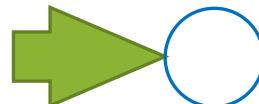
IFC出力時に
リンク切れが発生



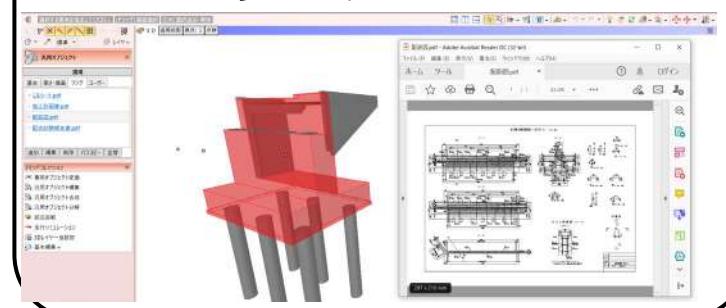
施工ソフトで参照できない



IFC出力時に
リンク切れを生じず
に出力



施工ソフトで参照可能

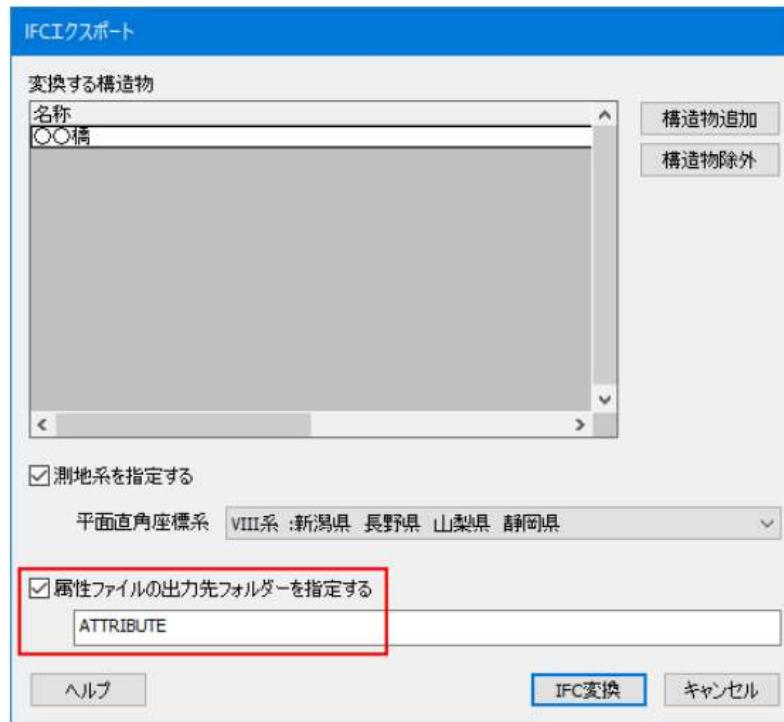


留意点④： IFCファイルは外部参照へのリンク切れが起こらないように出力すること

4.2 リンク切れが起こらない出力の方法

各ソフトウェアでのIFCでの外部参照へのリンク切れが起こらないように出力する方法は、別紙（<https://ocf.or.jp/cim/bim-cim/>）を参照ください。

出力設定の例（使用するソフトウェアにより異なります）





OCFはスムーズなBIM/CIMデータ流通に向け、各種標準化活動等を行っています。